

南小たば風通信 2018

平成30年12月20日(木) 第31号

6年生 国語科授業 事後研の記録

今号では、6年生の授業の事後研で話し合われた内容をまとめました。個人面談週間、参観日が続くタイトなスケジュールの中、授業を公開していただいていたありがとうございます。



6年生 国語 筆者の考えを読み、感想を書こう

『ぼくの世界、君の世界』 ～C読むこと～

◎授業者から

稲船先生

- 哲学的な話で、難しい内容でしたが、授業をするうえで勉強したいと思い、本単元を選んだ。
- 今週になってバタバタしてしまったが、試行錯誤して授業に取り組んできた。
- 単元を進める中で、味や痛みに関する感覚には、それぞれ捉え方が違うということをお互いに共有、想像することができた。
- 時間がオーバーしてしまった。本時の中で、凝縮できる場面はどこだったか。「共感した例」のところをコンパクトにすることで、ふりかえりまで時間内にできたかもしれない。または、“筆者が伝えたいこと”を事前に捉えさせておいて、自分達の実体験を考えながら交流する流れもありだったかもしれない。

押見先生

- 交流の場面で意見が出てこない場合にT2としてお手伝いができればと思って指導にあたった。その入り方でよかったのか、意見があれば聞きたい。

◎グループ別協議の内容

<Aグループ>

- 単元の構成…同じ流れを繰り返すパターンで授業を進めてきたので、話し合いがスムーズで、発表したいという意欲が高まっていたのではないかと。
- 前時までの内容が掲示物で視覚化されていて、児童が考える際の手立てになっていた。
- 音読の仕方がよかった。読ませたい内容によって、その日その日で読み方を工夫すると良い。
- 担任のフォローがよかった。間違った意見に対して、自信を失わせない心遣いが良かった。
- 話を聞く態度が大事。
- 発表の仕方は、ミニホワイトボードに書いた意見をそのまま読むのではなく、補足の言葉をつけたして発表すると、より良くなると思う。



<Bグループ>

- 雰囲気が良い。児童の反応が良い。掲示物が良い。
- 筆者の考え⇒児童の実体験⇒筆者の考えという児童の思考の流れが生まれた。
- 時間配分を改善できるとしたら、“共感した例”の部分を短縮するとよかったのではないかと。
例えば、事前アンケートで好きなアニメについて聞いたうえでグループを作って、話し合いをする方法など。
- “筆者が伝えたい事”をキーワードでまとめれば、スムーズに振り返りに繋がったのではないかと。



<Cグループ>

- 「つかむ」の段階で、抽象的な内容の文章を板書、掲示物で端的におさえることができた。
- 話の内容に合致した話し合いにするには、もう少し工夫が必要だったかも。
(何を話し合わせるかを吟味する。)
- グループで話し合うことで、違いに気付く事ができたのではないかと。
- 板書を短くまとめられると、より効果的に内容をおさえさせることができたかも。

◎吉川教頭先生より

学校評価で厳しい意見が出てきた。“教育のプロとしての”という意見があった。保護者の要求が高いということではないか。研修が多い学校だと思うので、プロ意識を高めていくという面でプラスに捉えて取り組んでいくことを大切にしていきたいと思います。

◎中山校長先生より

授業は「チャイムが始まりチャイムで終わる」が基本だが、今日は授業がオーバーしても、児童の集中が途切れずに頑張っていた。これは、担任と児童の関係性がよいこと、担任の本時に対する思いがしっかりしていたことが伝わってきて嬉しかった。

残りの研修旅費で、道外視察を含め有効に使ってほしいと思います。

